

8 学校アクションプラン

平成19年度 高岡工芸高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	(1) 教科指導の充実	
重点課題	学習意欲の向上と授業改善	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段、家庭で全く学習していない生徒が多い。学ぶ意欲を育て、自ら学び続ける等、学ぶ姿勢の改善に向けた働き掛けが必要である。 ・ 生徒の学習意欲の向上を図るため、生徒による授業の評価や互見授業を実施し、分かりやすい授業への取り組みが必要である。 ・ 式の変形や単位換算等、基礎的な知識に欠けている生徒が多い。 ・ 4月に実施した本校独自の基礎計算力テストにおいて、その正答率が61.8%と低く、専門教科の指導に支障をきたすおそれがある。 ・ 各教科・学科において、それぞれの教科に関する検定や資格取得に向けた補習などを行っている。 ・ 全教科目においてシラバスを生徒に公表し、分かりやすい授業の実施に取り組んでいる。 	
達成目標	互見授業の実施回数	生徒による授業評価の実施回数
	年1回以上	年3回(各学期1回)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業改善を行う単元を明示して1・2学期中に1回以上の互見授業を実施する。 ・ 各自、互見授業の実施日を公表し、全職員に公開する。 ・ 他の教員の授業を多く参観し、授業改善の参考とする。 ・ シラバスの充実と活用により、より分かりやすい授業の実践に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒による授業評価を各学期に1回実施する。 ・ 生徒の実態を踏まえた授業改善に役立てるよう、授業評価表を各自工夫し、実施する。
達成度	授業を公開することはほぼ達成できたが、他の教員の授業を多く参観することは達成できなかった。シラバスは全教科作成し、開示。	1学期の実施割合は少なかったが、2学期は実施割合は上がった。評価表は、各自で工夫し、実施された。
具体的な取組状況	行事黑板と、授業変更黑板に明示した。しかし、周知徹底ができず、見学ができなかった教員が複数出た。今後検討が必要である。シラバスは、各教室に掲示し活用する。	各学期最後の授業で実施する。準備された授業評価表のサンプルを各自の工夫で改善して、実施。
評 価	B	C 実施率は約50%
学校評議員の意見	外部との連携や専門家による授業が見学のキッカケになるのでは。保護者の参加(互見授業の参観)を検討してはどうか。教員の向上に繋がることであり、今後も続けて欲しい。	次の授業に繋がるようなアンケートの検討が大切である。学期当初に生徒に達成目標を立てさせ学期末に達成度を記入させ、これの原因を生徒に探らせる方が学業定着には効果的ではないか。
次年度へ向けての課題	授業を公開することは定着してきた。次の段階として、積極的に授業を見学し、授業の感想等を授業者に伝え、お互いに授業を改善する姿勢が必要である。	実施率が約50%と低く、実施方法を工夫する必要がある。HRの時間を使って、生徒による教科の評価をする機会を確保する等の方法も検討したい。

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった)

重点項目	(2) 生徒指導の強化	
重点課題	生活の乱れによる遅刻・欠席・早退をしない規則正しい生活指導	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から月3回以上遅刻した生徒には、個別指導を行っている。 ・朝の校門指導を行い、遅刻の防止に努めている。 ・昨年度は、生徒1人当たりの年平均遅刻回数は1.1回であった。 ・遅刻数全体の約33%が、朝寝坊や怠惰である。 	
達成目標	朝寝坊や怠惰等による遅刻回数の減少	
	遅刻数全体の20%未満	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通しての全教職員や校風安全委員による「あいさつ運動」を行い、啓蒙活動を実施する。 ・遅刻防止に対する意識を高める標語やポスターの掲示を行い、生徒の意識の高揚を図る。 ・担任、学科、部顧問等との連携を密にし、遅刻者の減少を図る。 ・遅刻、月3回以上生徒への面接指導を充実する。 	
達 成 度	2月中旬までの総遅刻数は509回(649回)あり、その内寝坊・怠慢による遅刻は199回(215回)で割合としては39.1%である。昨年度より16回減少はしているが、目標は達成していない。但し、総遅刻数は140回、22%の減少をみており健康管理や遅刻に対する意識の高まりはみられる。この意識を定着・発展させる工夫も必要であった。(18年度)	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校風安全委員にクラスにおいて遅刻や生活態度に関しての呼びかけを行った。 ・各クラスから遅刻防止に関するアンケートをとり、それを基にしたポスターを作成し、各クラスに配布することによって遅刻防止意識を高める。 	
評 価	C	昨年と同程度であった。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席、遅刻の習性のある生徒は社会でも苦勞する。しっかりと指導して欲しい。 ・何らかの評価に繋がらないと遅刻は少なくなるのではないか。 ・無遅刻、無欠席の生徒の評価を検討してはどうか。 ・遅刻する生徒は限られた生徒ではないのか。人間対人間といった指導が必要ではないか。 ・次年度はBとなるよう現時点での問題を整理し、レベルアップの新たな課題を作り、必ず実行できる行動計画で実施して欲しい。 ・10・11月の遅刻者が少ない理由は何か。生徒たちに何か特別の目標があったのでは。目標を明確にすれば遅刻が減少するのであれば少し安心です。 ・遅刻、早退は家庭への働きかけも大切である。 	
次年度へ向けての課題	<p>生徒指導部だけの遅刻防止対策には限界がある。現状では朝の打ち合わせや集会、校風安全委員を通じた生徒に対する啓蒙活動が中心となっている。しかし、日々生徒と接するクラス担任や、専門教科で指導を受けている各科の先生方の今まで以上の協力がこのような基本的な生活習慣の確立には欠くことができない。</p> <p>そこで、学年を主体とした遅刻防止週間を学期に数回実施し、担任や各科の教員が生徒の遅刻防止運動にあたってもらう体制を作ることが大切だと考え、実施に向け努力したい。</p>	

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持 D : 現状より悪くなった)

重点項目	(2) 教育相談の充実	
重点課題	メンタルヘルスケアの充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談室が、生徒や保護者にとって身近な存在とは言えない面がある。 ・近年の生徒の悩みは多岐に渡り、解決にはできるだけ早期の専門化による適切なアドバイスが欠かせない。 ・学校不適応生徒が見受けられ、心の問題についての理解と問題性の早期発見に努める必要がある。 	
達成目標	臨床心理士による職員の校内研修の実施	
	年2回の実施	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育相談室だより」を年2回以上発行する。 ・臨床心理士による職員研修を年2回実施する。 ・心の問題に関するアンケートを実施する。 ・スクールカウンセラーの来校日を定期的にとり、気軽に相談できる機会を設ける。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士による職員研修を行った。 ・教育相談室だよりを発行した。 ・スクールカウンセラーによる相談会を設けた。 ・学校不適応生徒、心の問題を抱える生徒に関する諸問題を対象にした研修会に参加した 	
具体的な取組状況	8月23日に臨床心理士の中塩真巳先生による職員研修会を行った。また、教育相談室だよりを発行して、相談室の利用法等を具体的に紹介した。事故による心のケアが必要と考えられる生徒に対して、カウンセラーによる相談会を持った。文部科学省が行う研修会に参加して、メンタルヘルスに関する知識・技能の向上を図った。	
評 価	B	年度当初に設定した達成目標に対して、着実に行動を起こし、取り組んできた。予算の関係で、割愛しなければならない状況もあるが、効果は十分に得られたと考えている。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話での「イジメ」に注意が必要である。 ・職員研修を大いに活用して欲しい。PTA活動でも取り組みばよいのではないか。 ・心の悩みに対する専門家、カウンセラーの配置はあるのか。 ・方策を確実に実行継続し、心の問題を抱える生徒を早期に発見し、進路指導も含めて適切な対応策を実施していただきたい。 ・HRを利用して、子供たちが自分たちの問題を分かち合うことができるピアカウンセリングのような機会を持つことも有効である。 ・先生方の資質向上は勿論ですが、生徒への積極的な働きかけの視点も必要である。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスケアを必要としている生徒の早期発見と的確な対応に関する教職員の資質の向上を図る。教職員間の連絡を密にして、対象生徒に関する情報の受け渡しを円滑に行えるような組織の充実を図る。 ・教育相談室利用に係わる認識の深化と紹介を充実する。 ・専門家による事例研究会を開催し、多様化している生徒に対応する教職員の資質向上を図る。また、特別支援に関する知識を習得し、各種発達障害が原因と考えられる諸問題に対して的確な対応が出来る資質の向上を図る。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	(3) 進路指導の充実	
重点課題	早期の進路決定と実現に向けての実力の養成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・職業観・勤労観に対する意識が明確でない生徒が多く、自分自身の特性について真剣に考えない生徒がいる。 ・将来にわたる生活設計を描くこともなく、ただ漠然と過ごしている生徒が見受けられる。 ・就職の先延ばしのための進学を考えている生徒がいる。 ・進学を希望するが、大学入試レベルの学力が身に付いていない生徒が見られる。 ・昨年度は、2年時末の進路未定者が、5.7%であった。 	
達成目標	早期の進路決定 2学年末の進路未定者3%以下	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップや進路講話(外部講師、先輩、保護者)を通して、キャリア教育の推進を図る。(年1回以上の進路講話の開催) ・進路に関するLHやガイダンス等の充実により、将来について真剣に考える機会を与える。 ・2年生全員によるインターンシップを実施し、早期からの望ましい就労観や職業観を身に付けさせる。 ・各学科の専門性を生かしながら、受け入れ企業の開拓に努める。 ・進学希望者には早期から、「絵画実技講座」や「基礎学力養成講座」等を実施する。 ・進学希望者の学力補充に対して、学校全体での取り組みとなるシステム作りを検討する。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年一斉に行ったインターンシップは予想していた以上の効果を上げた。また、来年度に向けての受け入れ企業開拓については、数社開拓した。 ・昨年まで進学希望者への講座で問題あった出席率の改善が行えた。 ・早期の進路決定について4月調査では未定者が11.5%であったものが12月調査では3.5%となっている。2月18日には進学・就職合同進路説明会を行い、その後3月19日には就職者向けにガイダンスを計画している。それによって今年度は未定者3%以下は達成できそうである。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年に対して集会・進路ガイダンスの開催や、求人速報の配布を行い、またインターンシップを一斉に行うことにより会社の名前や仕事内容の啓蒙に努め、進路決定の参考となるようにした。 ・インターンシップについては2学年一斉に行うことによる事前指導の徹底、事後指導の充実に努めた。 ・進学希望者に対しては「絵画実技講座」、「基礎学力養成講座」の充実や出席率の向上に努めた。 	
評 価	B	学校内部だけの動きにとどまってしまった。もっと積極的に現場の方々の講話を行うべきである。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の進路決定を早くして将来に向けた取り組みを積極的に行うことは非常に良いことである。 ・進路の取り組みは素晴らしいと思う。他校の手本になるのではと思われる。 ・近年に卒業した卒業生を呼んで、実質的にどんな準備や心構えが必要かを聞くのも良いと思う。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの内容的には満足できたが、生徒の通勤について検討を要する。 ・進路実現に向けての実力養成のために、現場の方々の生の意見を生徒たちに聞かせる機会を設ける必要がある。 ・進路決定のための仕事の種類や内容を知るため、工場見学などの現場見学を増やす必要がある。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	(4) 特別活動の活性化	
重点課題	部活動内容の満足度と学校行事の充実感の高揚	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の部活動加入率は80%を越えており、その活動は本校教育の大きな柱となっている。 ・活動は活発であり高い成績を収める部も多いが、中途退部者も見受けられる。 ・活動内容によっては、生徒の自主性が損なわれることがある。 ・活動場所や器具等の環境が整備されていないところがある。 ・伝統ある本校の学校行事は、毎年定着化している。 ・参加する生徒の取り組む態度には、その主体性に大きな差が見られる。 ・安全な活動のために、常に思慮深く計画立案、実行している。 	
達成目標	部活動内容の満足度	学校行事の充実感
	80%	80%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が一生懸命かつ安全に活動ができる環境づくりを積極的に推進する。 ・生徒にアンケート調査を行い、「満足できる」と自己評価した割合を80以上とする。 ・定期的に各部の部長を集め、活動内容の把握や激励助言に努める。 ・部活動と家庭との連携が強くなるよう支援や協力をする。 ・生徒会だよりや掲示板に大会日程やその成果を掲載し、学校全体の雰囲気と生徒の気力を高揚する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事ごとにアンケートを行い生徒の満足度が80%を越えるように努力する。 ・集会や「生徒会だより」を通して、学校全体のモチベーションの高揚に努める。 ・生徒会を中心として事前アンケートを実施して、生徒の意見の把握に努める。 ・教職員間の協力体制を密にし、行事内容の一層の充実化を図るとともに、安全な行事の実施に努める。
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部は活発で頑張っているものの、成果がない部活動があり、生徒満足度結果が懸念される。今後の活動を応援したい。 ・一方、文化部や各科の活躍が目立ち、目標達成に期待が持てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果から、昨年度より高い満足度が見られた。 ・各行事が天候に恵まれたこともあり、生徒会や先生方が工夫を凝らし、積極的な事前準備を行った成果だと推測される。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・壮行会、表彰伝達式等の集会において激励を行っている。 ・生徒会から各運動部の代表に激励インタビューを行った。 ・部員には部活動の意義を確認させ、ひたむきな努力を喚起した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早い段階から、生徒会には意識付けを行い、先生方には工夫と連携を深めていただいた。 ・運動会、尚美展、球技大会においてアンケート調査を行った。(別紙アンケート結果参照)
評 価	C アンケート結果から文化部の生徒の高い満足度が見られた。	B アンケート結果から生徒たちの高い満足度が見られた。
学校評議員の意見	結果が出ないと満足に繋がらないことが残念な気がする。努力そのものを高く評価するように。	マンネリ化を防ぐ工夫をしながら今後とも沢山の行事を続けて欲しい。
次年度へ向けての課題	昨年度より表彰数は減少した。一方では、生徒の満足度は高い。この結果を踏まえ、部活動の意義を再確認し、部顧問が連携して競技力は勿論のこと、生徒の充実度が向上できるよう環境整備や情報提供に努力をしたい。	本校の学校行事は定着化し、生徒も楽しみにしている。それぞれに高い満足度が見られるが、マンネリ化を防ぎ、さらに生徒や先生方の意見を多く取り入れ、より良い行事を企画、実行していきたい。行事環境の重要性を再認した。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	(4) 読書指導の充実
重点課題	図書館利用者と図書貸し出し数の増加
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の一人平均の図書貸し出し数は1.6冊である。(延べ、934冊) ・図書館を利用する生徒に限られており、読書(活字本)に対する意識や関心が全体的に低い ・図書館主催の読書会等の催しでは、図書委員以外の参加者が少ない。
達成目標	<p>生徒1人当たりの年間図書貸し出し数</p> <p>2.5冊以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便りの発行(年9回)や読書会(年2回)、全校生徒を対象とした朝読書(年2回)等の開催により、読書に対する意識の高揚と定着を図る。 ・図書館や新着図書に関する情報を拡充し、読書への興味、関心を高める手だてを工夫する。 ・図書館を活用した授業の推進を図り、図書館を身近なものとして、利用しやすい雰囲気作りに努める。 ・国語科との連携により、読書習慣の意識の高揚と定着を図る。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館に関する発行物、行事に関しては当初の計画どおり進めているが、利用率の向上はそれほど成果に結びついていないのが現状である。 ・貸出率は昨年度に比較しやや向上は見られるが、図書館を訪れる生徒は限られており、全校的な利用率は低い。 ・新校舎となり、生徒は利用しやすくなったが、移動距離との相関性はあまりないと考えられる。 ・授業時における図書館利用は、国語科、デザイン科、工芸科などで利用率が向上している。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便りの発行(年9回:3回増)、読書会(年2回:1回増)、朝読書(年2回:現状)は実践した。 ・尚美展では図書推進を図る展示物などを工夫して展示を行った。 ・新しいパソコンの設置により、図書館を訪れる生徒が増えた。 ・図書館司書が生徒とのコミュニケーション作りに努め、本を借りないまでも図書館を訪れる生徒数が多く、読書への契機付けにつながっている。
評 価	C 昨年度に増した積極的な図書推進活動ができなかった。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・30%も高くなっているのだから、B評価でもよいのではないか。 ・図書館の利用者数の増加を計るのが良いのではないか。 ・朝読書の本を、必ず1度は図書館の本を借りることを義務づけては。 ・クラス・学年毎にターゲットを決めて、貸し出し月間を設けるや、貸し出し数を表にして掲示する等、生徒の競争心をあおるのも良いのではないか。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度2月末現在の図書貸し出し数は、延べ1236冊(平均2.1冊)となり、目標値に達しないまでも、昨年と比較し向上がみられた。要因として国語科の学習において一人一冊の読書指導、生徒の興味・関心を高める書籍ならびに授業に関連する書籍(資料活用)の充実などが考えられる。 ・次年度はさらに読書意欲を高める書籍類の購入を心がけるとともに、教科との連携を図りつつ、自主的あるいは他律的にも読書に親しむ機会を工夫していきたい。 ・広報活動については、従来の「図書だより」の内容の見直しや、校内掲示板等の活用により図書館利用の推進を促す掲示物の工夫を図っていきたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	(5) P T A活動等の活性化	
重点課題	保護者及び地域・社会との連携を深める。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A行事における参加状況は高いとは言えない。 ・ 生徒を通じて、P T A行事の案内をしても、生徒自身が重要性を認識していないため、保護者に渡らない場合がある。 ・ 昨年度の諸行事の参加率は、1～6%であった。 	
達成目標	P T A行事への保護者の「参加率」 8%以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡網を確立して、広報活動の充実を図る。 ・ クラス担任と保護者との連携を密にして、P T A活動への参加・協力をお願いする。 ・ クラス担任と連携を図り、P T A行事等の案内・回答を工夫して、その回収率を80%以上にする。 ・ 教育・安全情報共用システムへの加入率を高め、メールマガジンを活用した情報の共有を推進する。 ・ 尚美展や授業参観等の学校行事に合わせたP T A行事を計画し、保護者の参加をお願いする。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A総会 56名(9.5%) ・ 地区別懇談会(2カ所) 51名(8.6%) ・ 進路指導研修会 16名(2.7%) ・ 教養講座(陶芸教室) 10名(1.7%) ・ 第100回尚美展係協力 30名(5.1%) 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総会は、竣工式、授業参観と同日開催のため、参加者が増加した。 ・ 地区別懇談会は2地区での夜間開催のため、参加者が増加した。 ・ P T A通信号外を発行し、参加協力を呼びかけた。 ・ 100回尚美展では、多数の役員協力、会員参加をお願いし、展示を盛り上げ、成功に導いた。 	
評 価	C	行事によって昨年度を上まわるものもあるが、未だ目標達成までには至っておらず、今後の努力と工夫が必要である。
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者数から見ると、内容よりも参加しやすいシチュエーションが大切だと思われるので学校行事や部活動に併せるのが良いと思う。 ・ P T Aの方々には学校のファンになって頂くのが一番だと思います。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度の新P T A役員体制を早急に決め新しく実効性のある連絡網を確立することで広報活動・体制の充実・強化を図ることも必要。 ・ P T A役員、担任、保護者間の連携を密にして、P T A行事等へのご理解、意識高揚を図り、P T A活動への参加・協力を依頼しては。 ・ P T Aの案内や教育・安全情報共用システムのメールマガジンを活用し、情報の共有することで連絡の徹底を計る。 ・ 生徒の教育活動や学校行事等に合わせたP T A行事を計画するとともに、保護者が参加し易い時間、内容や機会を極力設定する。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)